

CECABと共に。サントメ島での23年の長きに渡る取り組み

カカオ豆輸出量が2倍に

KAOKAが取り組む生産者組合、CECAB（セカブ）は、新型コロナウイルス感染症流行前の2019年と比べて、カカオ生産者が900人増え、合計3,108人が所属する大きな生産者組合となりました。

そして、2022年のカカオ豆輸出量は2019年と比べ、その2倍にあたる1,650MTとなりました。

KAOKAは、どんな厳しい状況下であっても例外なく、収穫された全てのカカオを適正価格で買い取りしています。そういった取り組みが、KAOKAとカカオ生産者により強固な信頼関係をもたらすのだと思います。



カカオ生産者のための、宿泊施設の建設

サントメ島がカカオの収穫で忙しくなるのは9～10月。多忙なカカオ生産者のために、KAOKAは宿泊施設を建設しました。新品のベッドや机等の家具が搬入され、着々とオープン準備が進められています。今後カカオ生産者の集いの場として利用されていくことでしょう。

またこの施設内には、KAOKAとCECAB（セカブ）がサポートして作られたチョコレート工場も併設されています。KAOKAは建設費用のほかに3名の製造員のフランス研修を企画し資金提供も行いました。現在、同製造員を中心に工場が稼働され、地域住民へのチョコレート販売に向けて準備が進められています。

カカオ生産者の副収入をサポート

KAOKAは、カカオだけでなく、『ジャカ（ジャックフルーツ）』や『アボガド』の苗木を育てています。

カカオの木は強い直射日光を嫌うので、シェードツリーとして背の高いバナナの木などを混植しますが、サントメ島ではバナナのほかに「ジャカ」や「アボガド」の苗木を育て植樹しています。これらの果物は、年に2回しかないカカオの収穫期以外の副収入となり、生産者の生計を立てる助けとなります。



KAOKAメールマガジン購読希望の方は、当社HPのお問合せフォームからお申込みください。